



## ■ 開発造成域

B 地区内の北側部分には、研究棟等の利用を図るため湿地を横切る進入道路が建設され、台地上に建造物や駐車場等が整備されました。開発区域内にあっても、影響を回避・軽減するための様々な自然環境配慮が講じられています。

## II. 研究棟利用域

### ◆ 造成工事前 2000 年



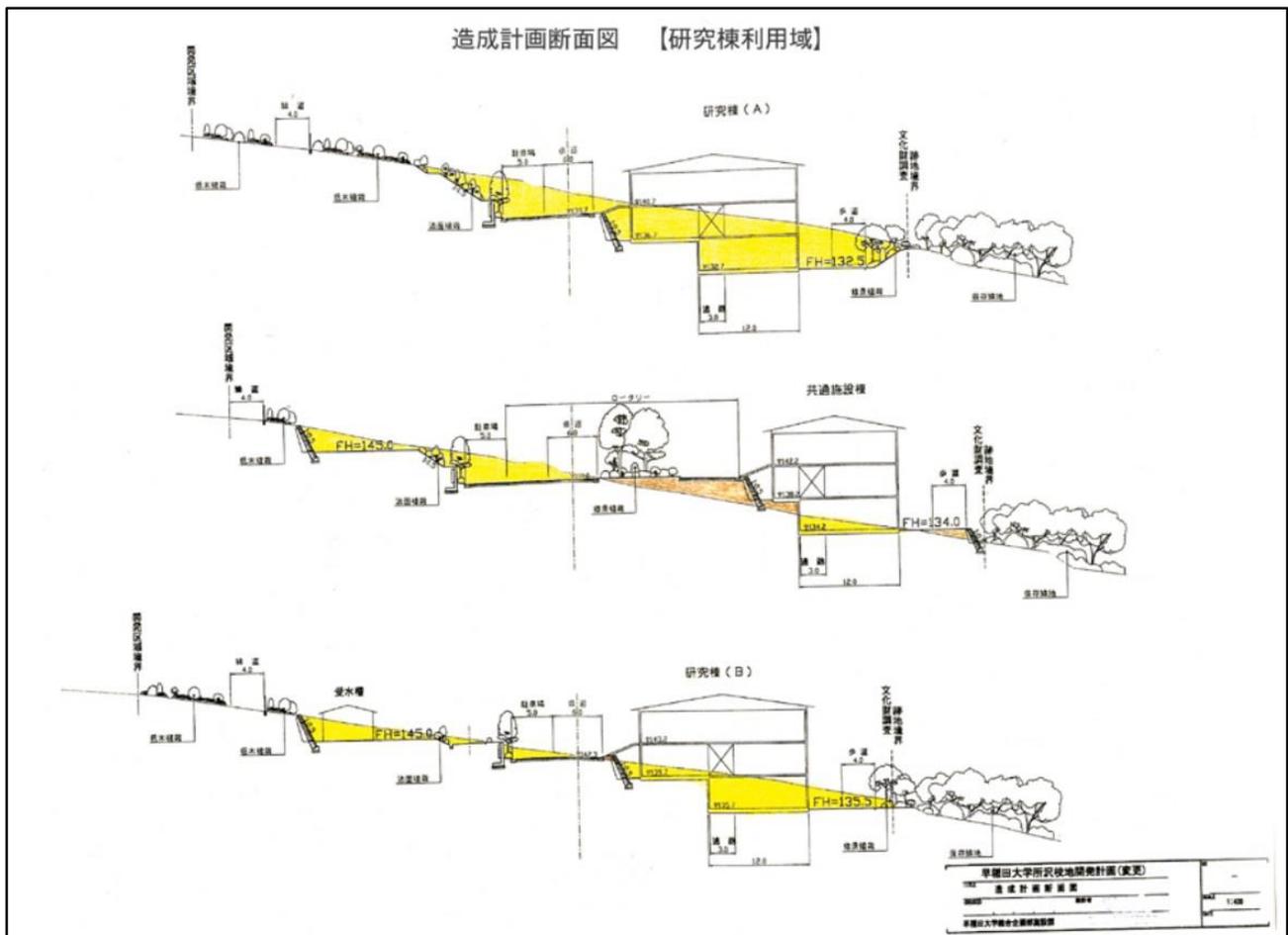
●2000 年 9 月 18 日  
B 地区西北端



●2000 年 9 月 18 日  
研究棟建設地

B 地区東北端の入り口部より進入道路を通じて、西北部の研究棟建設域へとつながります。

かつて畑として利用されていた場所は、埋蔵文化財の発掘調査後の 2001 年まで草地となっていました。



研究棟利用域の造成・建設に際しては、開発区域を畑地利用跡の中だけに限定することや、現況地形を最大限尊重して切土・盛土量を減らすことなどの配慮がなされました。

◆基盤造成工事 2002 年



●2000年9月18日  
B地区西北端



●2002年12月5日②  
植栽擁壁工事

開発造成区域では、研究棟の建設に先立って、2002年に基盤造成工事が実施されました。

左は、ススキ移植実験区北側の植栽擁壁工事の状況。



●2010年5月13日③  
工事完了8年目の植栽擁壁



●2011年5月20日④  
工事完了10年目の植栽擁壁

工事完了後10年程が経過するまでには、擁壁は植生に被われ南側のススキ装置と一体となった景観が形成されています。

◆研究棟建設工事段階 2002年～'06年

研究棟建設地では、2002年に基盤造成が行われた後に、2005年に研究棟建設計画が評価委員会で決定され、2006年に建設工事を実施し、2007年4月から1棟目の供用が開始されました。



●2002年10月10日①  
研究棟建設地



●2004年4月16日②  
研究棟建設地



●2005年8月19日③  
研究棟建設地



●2006年2月10日④  
研究棟建設地



●2006年2月10日④  
研究棟建設地



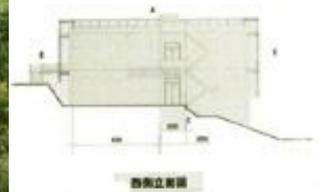
●2006年8月4日⑥  
研究棟建設地



●2006年9月29日⑦  
研究棟建設地



●2006年11月4日⑧  
研究棟建設地



研究棟建設に際しては、南側の湿地への配慮として窓からの遮光や野鳥の衝突防止、植栽による景観対策等が実施されました。

◆研究棟南側の景観対策 2006年～



●2006年12月1日  
建設中の研究棟南側（湿地側）からの景観



●2007年5月11日  
供用後の研究棟南側（湿地側）からの景観



●2007年11月16日  
供用初年の研究棟南側



●2008年6月8日  
研究棟南側に植栽されたシラカシ・アカマツ等



●2008年7月11日  
目隠し植栽後の研究棟南側



●2008年7月11日  
目隠し植栽後の研究棟南側





●2012年10月2日  
供用後の研究棟南側(湿地側)からの景観



●2013年10月3日  
供用後の研究棟南側(スキ原)からの景観



●2012年5月11日  
目隠し植栽5年後の研究棟南側



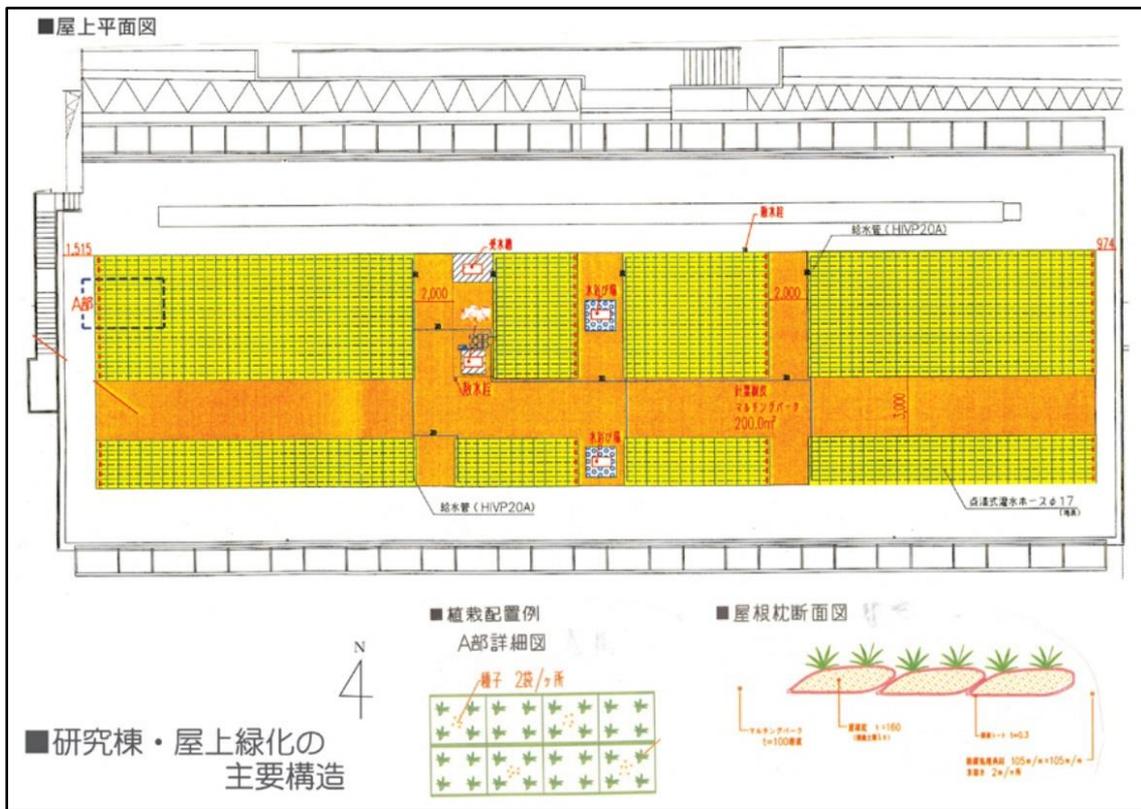
●2010年5月13日  
研究棟南側斜面からの景観



●2011年5月20日  
研究棟南側湿地からの景観



●2013年1月18日  
研究棟南側斜面の冬季の景観



◆研究棟の屋上緑化対策 2007年～'15年 (在来植物による植栽モニタリング)



●2007年3月9日①  
屋上に設置された植栽基盤(屋根枕)



●2007年3月9日①  
屋上に設置された植栽基盤(屋根枕)



●2007年7月20日③  
植栽初年の夏季の状況



●2007年11月26日④  
植栽初年の秋季の状況



●2008年7月11日⑤  
植栽2年目の夏季の状況



●2009年4月24日⑥  
植栽3年目の春季の状況



●2010年5月13日⑦  
植栽4年目の春季の状況



●2011年5月20日⑧  
植栽5年目の春季の状況



●2011年9月29日⑨  
植栽5年目の秋季の状況



●2012年5月11日⑩  
植栽6年目の春季の状況



●2012年10月25日⑪  
植栽6年目の秋季の状況



●2013年11月12日⑫  
植栽7年目の秋季の状況



●2014年7月25日⑬  
植栽8年目の夏季の状況



●2014年9月26日⑭  
植栽8年目の秋季の状況



●2015年4月16日⑮  
植栽9年目の春季の状況

#### ◆研究棟屋上緑化の課題



●2014年7月25日  
生育状況の不良により裸地部が増加



●2014年7月25日  
土壌の減少、仕切り材の腐食等が進む

植栽当初は、コナラ・クヌギ・ウツギ・ヤマハギ・ジャノヒゲ等の在来植物の生育が見られましたが、植栽8年程の経過の中でアキグミ、イボタノキ以外は、ほぼ消失し、植栽基盤の傷みも顕著となりました。

◆研究棟屋上緑化基盤の改修 2015年5月～6月

評価委員会で決定された「屋上緑化植栽方針」等の検討に基づき、2015年5月～6月に土壌の追加や周囲仕切り材の再設置等の改修工事が行われました。



●2015年5月27日  
緑化基盤改修工事の状況①



●2015年5月27日  
緑化基盤改修工事の状況②



●2015年6月17日  
基盤改修後の再移植の状況



●2015年6月17日  
コマツナギ苗の再移植



●2015年6月17日  
イヌハギ苗の再移植



●2015年6月17日  
北側植栽地の改修後



●2015年6月17日  
南側植栽地の改修後

7cm程に縮小した土厚を16cm程とし、イボタノキ・アキグミ・ヤマハギ等に加え、コマツナギ・イヌハギ・ウマノズクサ等が植栽された。

◆屋上緑化基盤改修後の推移 2015年～



●2015年5月27日①



●2015年6月24日②



●2016年7月28日③



●2015年9月30日④



●2016年10月25日⑤



●2016年12月9日⑥



●2017年10月31日⑦



●2018年10月26日⑧

◆研究棟建設計画地の景観 2016年～2018年11月8日



●2016年10月25日



●2017年12月19日



●2018年10月26日

◆草目地駐車場の景観 2016年～2018年



●2016年10月25日



●2016年12月9日



●2018年10月26日



●狭山丘陵に溶け込んだB地区研究棟  
2017年12月19日



●2018年10月26日  
広がりを見せる屋上緑化のチガヤ群落

研究棟の屋上緑化は、自然環境の中に突出した人工的な建造物であることを柔らげ、周囲の狭山丘陵と一体となった景観が形成されるに至っています。